

音楽科の「深い学び」を実現する授業づくり

生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力

学びに向かう力、人間性等

- ・音楽を愛好する心情
- ・音楽に対する豊かな感性
- ・音楽に親しんでいく態度

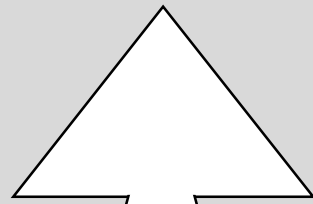
豊かな
情操

知識及び技能

- ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性を理解する。
- ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。
- ・音楽を形づくっている要素などについて、音楽における働きと関わらせて理解する。
〔共通事項〕

思考力、判断力、表現力等

- ・知識や技能を習得・活用しながら、音楽表現を創意工夫する。
- ・知識を習得・活用しながら、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
- ・音楽を形づくっている要素や構造の知覚・感受と、その関わりについて考える。〔共通事項〕



実感を伴った理解

必要性

知識

技能

技能

音楽的な見方・考え方

知識

知識

知識や技能を発揮・活用

思いや意図

繰り返しながら

思考

表現

知覚・感受したことを音や音楽で確認

判断

音楽的な見方・考え方

〔共通事項〕を

支えとした

表現及び鑑賞の幅広い活動

音楽科における「深い学び」について

左図は音楽科の『「深い学び」を実現する授業づくり』の概要を示しており、上部は音楽科で育成したい資質・能力である。音楽科における「深い学び」の状態とは、「個人の感性や音楽的な『見方・考え方』を働かせながら、思いや意図をもってより豊かな音楽表現を創意工夫したり、音楽のよさや美しさを深く聴き味わったりする過程で、自分にとっての音楽の価値についての認識が深まる」状態と考える。生徒の学びをこの状態にするには、題材構成の中に自分なりの考えを形成する場面を意図的に位置付けることが重要だろう。例えば、表現領域では、曲のよさや曲に対する捉え方を質的に深め、自分にとっての意味を見いだしたり、曲にふさわしい表現はどのようなものか、自らの価値判断を伴ったより豊かな創意工夫を考えたりする場面、鑑賞領域では、生活や社会における音楽の意味や役割を自分なりに考える場面の位置付けである。

音楽科における「見方・考え方」について

「深い学び」を実現するためには、左図の三つの資質・能力が相互に関連し合うことが必要であり、その鍵となるのが音楽的な「見方・考え方」である。学習指導要領解説では、音楽的な「見方・考え方」とは「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」と示されている。音楽科の学習の基盤は、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚すること、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること、そして、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるという一連の過程であり、対象となる音や音楽を知覚・感受するときに、生徒の音楽に対する感性が働いている。その支えとなっているのが、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力である〔共通事項〕である。音楽に対する感性を働かせて、音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取ることを積み重ねていくことで、豊かな情操が育成されていく。では、どのような視点で音や音楽を知覚・感受し、どのように思考していくのか。以下に「見方」と「考え方」に分けて整理した。

音楽的な「見方」

「見方」がどのように対象を捉えるか、だとすれば、音楽的な「見方」とは、「音や音楽を形づくっている要素とその働きの視点」で音や音楽を知覚・感受することと言える。対象となる音や音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどが、どのような要素によって生み出されているかを知覚・感受することは、創意工夫を生かした表現で演奏するにはどのような音がふさわしいのか、なぜふさわしいのかなどを考えていく際の視点となる。〔共通事項〕に示されている音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素を手がかりにすれば、それらに加えて例えば言葉の抑揚、発声法、その要素同士がどう関わっているかなど、さらに細かい視点で捉えることができる。これは、これまでの授業づくりでも大切にされてきたことであり、音楽科特有の対象を捉える視点、つまり音楽科の本質に直結する視点とも言える。

音楽的な「見方」を働かせる「問い」の例

- ・なぜそのように感じたのだろうか ・音楽のどこからそう感じたのだろうか
- ・〇〇〔共通事項〕はどうなっているだろうか

音楽的な「考え方」

音楽的な「考え方」とは、感性を働かせ、音楽的な「見方」で捉えた音や音楽を自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化等と関連付けて思考することである。音楽表現を創意工夫していく過程や音楽のよさや美しさを味わう過程で、音や音楽とこれらとの関わりについて考えることは、音楽が果たす役割や音楽の存在意義、価値を考えることにもつながり、音楽科で育成したい資質・能力の獲得に向けて学びが一層深まる。

音楽的な「考え方」を働かせる「問い」の例

- ・なぜ作曲者はこの部分を～にしたのだろうか
- ・～を表すためにはどのように歌えばよいだろうか
- ・この曲のおもしろさはどんなところだろうか

音楽的な「見方・考え方」は左図のように、知識や技能の習得の場面、思考・判断・表現を繰り返しながら創意工夫したりよさや美しさを味わったりしている場面のそれぞれで働いており、さらにそれらの場面が相互に関連し合う際にも働いている。また、「見方」と「考え方」は〔共通事項〕を支えとしてつながっている。教師が働かせたい「見方・考え方」を明確にし、学習課題を含む「問い」を吟味して授業づくりを行うことが、「深い学び」の実現に向けて重要である。

実践事例

1 題材名

第1学年 曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取って聴こう

教材 「魔王」(シューベルト 作曲)

【B 鑑賞】(1) ア(ア)、イ(ア)

〔共通事項〕音色(声色)、強弱、旋律等

2 本校の研究と本実践の関わり

第1学年の鑑賞領域では、音楽を自分なりに評価しながら、そのよさや美しさを味わって聴く力を育てることをねらいとしている。よさや美しさを味わうということは、その音楽を価値あるものとして自らの感性をもって捉えることである。そのよさや美しさを自分なりに評価するには、音楽を形づくっている要素や曲想と音楽との構造の関わりを理解し、それらを根拠としながら、音楽と音楽によって喚起された自己のイメージや感情を結び付けて考えることが必要である。音楽を形づくっている要素や曲想と音楽との構造の関わりを理解する際には音楽的な「見方」が、音楽と自己のイメージや感情を結び付けて考える際には音楽的な「考え方」が働いている。

「魔王」は独唱とピアノで演奏される楽曲で、詩はストーリー仕立てになっており、歌い手は1人で語り手、父、子、魔王の4役を歌い分ける。詩の内容や音楽の特徴から生徒はイメージを膨らませやすく、曲想と音楽がどのように関わっているかを感じ取るには適している教材と言える。本実践では、前期に学習したヴィヴァルディ作曲「春」の鑑賞を通して、曲想と音楽の構造との関わりについて習得した知識を生かし、それぞれの登場人物による音域の違い、声色、強弱、ピアノ伴奏の変化等、役柄をどのように表現しているか、生徒は音楽的な「見方」を働かせながら聴き、自分の感じ取った曲想と結び付けて、楽曲を味わうことができるだろうと考えた。

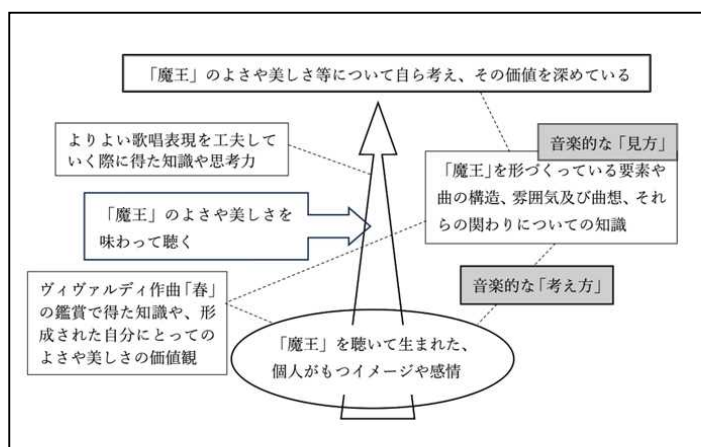
3 実践

(1) 本実践における「深い学び」

本実践における生徒の「深い学び」の状態は、「魔王」という楽曲のよさや美しさ等について自ら考え、その価

値を深めることであると考え。そしてその根拠には、本題材で得た音楽を形づくっている要素や音楽の構造、雰囲気及び曲想、それらの関わりについての知識があり、さらには、ヴィヴァルディ作曲「春」の鑑賞で得た知識や「春」で形成された自分にとってのよさや美しさの価値観が結び付いている。また、合唱曲の学習でよりよい歌唱表現を工夫していく際に得た知識や思考力も結び付くだろう。鑑賞に関わる知識を生かしたり、新たに得たりしながら、音楽の表層的な捉えに留まらず、生徒自身にとって価値のあるものとして認識を深められるようにしたい。

<「深い学び」のイメージ図>



(2) 題材の目標

- 「魔王」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。(知識及び技能)
- 「魔王」の音色、強弱、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したものと感受したものと関わりについて考えるとともに、曲に対する評価とその根拠について自分なりに考え、曲全体の音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- 「魔王」の音色、強弱、旋律に着目しながら、曲想の変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

(3) 全体計画 (全3. 5時間)

次	主な学習活動と 「見方・考え方」を働かせることに関わる「問い」	配 時
第1次	○「魔王」の前奏を聴き、曲のイメージをもつ。 ・どんな感じがした？ ・どうしてそう感じた？（どこからそう感じた？） 課題 「魔王」の曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取ろう ○日本語で朗読し、詩の内容を理解した上で、原語で「魔王」全体を聴く。 ・ドイツ語でも登場人物が代わったのが分かるのはどうしてだろう？ ・一人でどうやって歌い分けているのだろう？ ○作曲家・作詞者について知る。	1
第2次	課題 語り手や登場人物の心情や様子を1人で歌い分けるために、どのような表現をしているのだろうか ○「魔王」を聴き、音楽を形づくっている要素や、曲想と音楽との構造の関わりについて理解する。 ・□□（登場人物）の歌い方についてどんなことに気付いた？ ・音楽のどこからそう感じた？ ・具体的に～（音楽の要素）はどうなっている？ ・それは□□のどんな心情や様子を表している？ ○ピアノ伴奏がどのように変化しているか、理解する。 ・「魔王」が歌っている時、ピアノはどうなっている？ ○登場人物の心情や様子をどのように表しているか、自分の言葉でまとめる。 ・登場人物の心情や様子の変化に伴って音楽はどのように変化していたか、具体的に音楽の要素をあげて説明しよう。	2
第3次	課題 声の表現のおもしろさを味わおう ○前時まで聴いていたCDの表現と、2人の歌手の表現を比較しながら、「魔王」を映像で鑑賞する。 ・CDと比べて表現の仕方はどうだった？	0.5

- ・顔の表現がすごく引き込まれた。
- ・字幕がなくても歌い方で何を言っているかだいたい理解できた。
- ・それぞれ表現の仕方は違ったけれど、「魔王（登場人物）」の最後の「Gewalt!」で、みんな噛み付くように歌っていたのは同じだった。

歌曲の鑑賞が初めてだったため、声そのものの魅力や声による表現のおもしろさを味わわせたいという意図だったが、やはりこの曲自体のもつ音楽的の魅力が大きく、生徒は心を動かされているようだった。生徒自身にとっての音楽の価値、今回の場合は「魔王」という楽曲のよさについての認識を深めるには、学びの振り返りとして、前時まで習得した知識を踏まえた3人の歌手の比較鑑賞を位置付けるのも一つのアプローチの仕方だと感じた。今回は時間が十分に取れず感想程度にとどまってしまったが、例えば、3人の中から自分の気に入った歌手を選びその理由について説明することで、生徒は音楽の構造等を一層客観的に把握し、自分にとっての価値を再確認したり、さらに楽曲のよさに迫ったりすることができ、学びが深まると考えられる。題材構成における振り返りの位置付けや方法次第で、学びの深まりが変わるだろう。

視点② 「見方・考え方」を働かせる「問い」

第2次の学習課題は「語り手や登場人物の心情や様子を1人で歌い分けるために、どのような表現をしているのだろうか」とした。教師側から、着目してほしい視点として、声色、強弱、旋律、調の4つをあげ、ワークシートへの記述を基に発表する形をとった。生徒は、音楽的特徴を先に述べ、「それは○○（登場人物）の～な心情を表している」と説明するパターンと、自分が音楽から感じ取ってイメージした登場人物の心情や様子を先に述べ、「それは□□（音楽的特徴）が～になっていることからそう感じた」と説明するパターンに分けられた。音楽的特徴あるいは登場人物の心情や様子どちらか一方のみを発表（ワークシートに記述）した生徒には、「音楽のどこからそう感じた？」「具体的にどんな声色だった？」「それって子どものどんな気持ちの変化を表している？」な

4 成果と課題

視点① 「深い学び」を実現する題材構成

本実践では、登場人物の心情や様子を音楽でどう表現しているかを言葉で説明していく過程に時間をかけ、生徒が感じたイメージと音楽の特徴を結び付けることを大切にしよう意識した。（第2次）

また、第3次として、授業を通して聴いていた歌手（フィッシャー＝ディースカウ／バリトン）の演奏と、新たに2人の歌手（イアン＝ボストリッジ／テノール、ジェシー＝ノーマン／ソプラノ）の演奏を比較し鑑賞させた。鑑賞後の生徒からは、次のような感想があがった。

どの繰り返し発問を行うことで、音楽を形づくっている要素や曲想と音楽との構造の関わりを理解し、登場人物の心情や様子と結び付けることができた。第2次の第1時には、自分の感じたことや音楽的な「見方」で捉えた音楽の特徴をなかなか書けなかった生徒も、他の生徒の発表を聞いたり、音楽の要素に着目しやすいように部分的に聴いて確認したりすることで、第2時には多くの生徒がワークシートに記入できていた。しかし、教師側から提示した着目すべき視点が多かったり、ワークシートに書かれた文言があいまいだったために、どのように記入すべきか困惑した生徒がいたことも否めない。

＜実際のワークシートの一部＞

生徒①

	心情や様子 詩の内容	声色 (どんな声)	強弱
父	なぐさめてゐるような 感じ	優しく語りかける ような声	少し弱
子	こわがっている おひえ、おせり	最初…細い声 ↓ 後…太い声	強
魔王	ささやいている	ささやくように 不気味な声	弱

このワークシートの表では、それぞれの登場人物の心情や様子の変化に伴って音楽も変化していることが書き表しにくい。「声色」については、ワークシート上に「どんな声」と示しているがゆえに、「太い声」「柔らかく優しい声」といった音色に関わる声の質感を表す以外にも「子どもを誘拐しようとする声」「本気で嫌がる声」などといった登場人物の様子をそのまま記述してしまう生徒もいた。

生徒②

	心情や様子 詩の内容	声色 (どんな声)	強弱
父① ② ③ ④	子供の様子を疑問に思ふような 感じ ↓ 子供をからかうような 強さで聞かせる 安心させて	冷静で暗い ②③、やわらかい声 ④、力強さが際立つ、太い	急に強くなる 強弱がわからない → 強弱がわかるように 変化
子 ①④	おびえている 恐怖感 焦り出す うたえかけるよう パニック	危機感が伝わるような 緊迫したような声 細い声、細い声 ③ 太い声、太い声	強弱が強い → 強弱がわかるように 変化 → 強弱がわかるように 変化
魔王 ①②	しるし/りりな感じ 楽しそう ゆかい	① やわらかく優しい感じ 何かを引きこむような ズルズルとした感じ ③ 強弱がわかるように 変化	① 弱く(やさしく) ↓ ③ 弱く→ 強くなる

このように自分で番号を付けたり、矢印や吹き出しを使ったりして、思考を整理することができた生徒もいた。

また、第2次のまとめの課題を①「登場人物一人を選

んで自分の言葉でまとめてみよう」としたところ、登場人物の何についてまとめるかが明確に示されていなかったために、「深い学び」に達しているか分からない記述が多かった。そこで、②「登場人物の心情や様子の変化に伴って音楽はどのように変化していたか、具体的に音楽の要素をあげて説明しよう」と設定し直した。そうすることで、生徒は学びを実感することができ、教師側も生徒の学びが深まっているかを見取りやすくなった。

＜設定し直しによる生徒の記述の変化＞

①「登場人物一人を選んで自分の言葉でまとめてみよう」

魔王の誘っていたり、怖かったりする様子を、弱い声→強い声、長調→短調などの変化で表している。

※下線は曲想、自己のイメージや感情に関わる記述、波線は音楽を形づくっている要素に関わる記述。

この生徒は、音楽の要素が変化していることを理解したものの、心情や様子が最初からどのように変化していると感じたのか、どのように音楽と結び付けて考えたのかが分からない。



②「登場人物の心情や様子の変化に伴って音楽はどのように変化していたか、具体的に音楽の要素をあげて説明しよう」

最初の方は、弱く優しくそんな声で長調で不気味な感じや誘っている感じを表現している。最後の方は急に強く短調になって、魔王がしびれをさらして怒っている感じを表現している。また、全体を通して魔王の部分だけ伴奏が小さくなって、不気味であやしい感じを表現している。

ワークシート上の文言は課題や教師の「問い」そのものであり、吟味が必要だと言える。題材の中のどの段階で生徒自身がどのように感じ取ったことを整理し、音楽と自己のイメージや感情をどのように結び付けるか、その手立てとなるワークシートの在り方についてはまだまだ改善の余地がある。

(授業者：上西珠子)